

平成 26 年度 事業 報告

1. 成長科学に関する研究助成、活動支援等を通じて科学振興を図る事業（公1）

(1) 研究助成事業

「研究助成事業に関する実施要領」に基づき、次のとおり実施。

日本内分泌学会雑誌およびホームページに応募要領を掲載、申請の締切日は 6 月 30 日とし公募。

1) 自由課題研究

【研究助成の対象の研究分野】

成長科学に関する研究であって次の研究分野のいずれかに該当するもの。

- ① 身体の成長・発達に関する基礎的・臨床的研究
- ② 成長ホルモン又は成長ホルモンの関連因子に関する基礎的・臨床的研究
- ③ 心の発達に関する研究

申請は 46 件あり、研究助成委員会において選考のうえ 9 月に選考結果の発表、21 件に対し助成金（計 1,050 万円）を交付。助成期間は 1 年。（別紙 1-1）

2) 指定課題研究

- ・（a）から（e）については、申請は6件あり、研究助成委員会において選考のうえ9月上旬に選考結果の発表、6件（計650万円）に対し助成金を交付。助成期間は2年。

（a）成長ホルモン療法の治療効果に及ぼす諸因子の解析並びにアドバース・イベントの調査に関する研究（300万円）

主任研究者：石井 智弘（慶應義塾大学医学部小児科学教室）

（b）成人成長ホルモン分泌不全症患者の診断・治療及び追跡調査に関する研究（150万円）

主任研究者：松野 彰（帝京大学医学部脳神経外科）

（c）成長ホルモン及び IGF-I 測定に関する研究（50万円）

主任研究者：勝又 規行（国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部）

（d）ヨウ素摂取と甲状腺機能、成長発達との関連に関する研究（70万円）

主任研究者：布施 養善（国立成育医療研究センター研究所成育政策科学研究部）

（e）低身長児（者）の生活の質に関する研究

主任研究者：宮尾 益知（どんぐり発達クリニック）（40万円）

主任研究者：花木 啓一（鳥取大学医学部保健学科）（40万円）

- ・（f）については、成育治療研究委員会、研究助成委員会において選考のうえ9月上旬に選考結果の発表、下記1件に対し助成金を交付。助成期間は2年。

（f）ヨウ素過剰が妊婦および新生児の甲状腺機能に影響する個体差（80万円）

主任研究者：鳴海 覚志（慶應義塾大学地域小児医療調査研究寄附講座）

3) FGHR（Forum on Growth Hormone Research）臨床研究

【研究助成の対象の研究分野】

小児の成長・発達及び内分泌領域に関する臨床研究を対象とし、今後の臨床の発展に寄与すると認められる研究。

申請は17件あり、FGHR臨床研究審査委員が選考のうえ、4月上旬に選考結果の発表、5件に対し助成金（1件：60万円）を交付。助成期間は1年。（別紙1-2）

4) 研究年報作成

平成25年度における自由課題研究、指定課題研究およびFGHR臨床研究に関する報告書をまとめ、研究助成の成果として研究年報37号を作成し、平成26年9月全国の大学医学部、医科大学および関係官庁の図書館、図書室並びに関係者に配布。なお、この年報には、「第26回公開シンポジウム」の講演要旨を併せて収載。年報収載の内容についてはすべてをホームページに掲載している。

(2) 学会等の団体に対する助成事業

「助成事業に関する実施要領」に基づき、次のとおり実施。

1) 当協会主催

第27回公開シンポジウムを「心の発達研究委員会」の企画で開催（別紙2）

日時 平成26年6月14日（土）13時30分～16時30分

場所 秋葉原UDX Theater

テーマ 『子どもと母へのサプリメント ～科学の観点から～』

司会 高橋 桃子 日本大学医学部附属板橋病院小児科

演者 児玉 浩子 帝京平成大学健康メディカル学部 教授

谷口 洋子 谷口医院 副院長

指定討論 宮尾 益知 どんぐり発達クリニック 院長

参加者 60名

2) 第32回 内分泌代謝学サマーセミナーの開催を補助（80万円）（別紙3）

日時 平成26年7月10日（木）～12日（土）

代表者 有田 順 山梨大学大学院医学工学総合研究部生理学講座 教授

場所 富士レークホテル（山梨県南都留郡河口湖町）

参加者 138名

3) 第87回日本内分泌学会学術総会における若手研究奨励賞（YIA）の副賞の一部（10名中5名）を補助（50万円）（別紙4）

日時 平成26年4月24日（木）～26（土）

場所 福岡国際会議場（福岡県福岡市）

4) Clinical Pediatric Endocrinology（日本小児内分泌学会）の出版費を補助（80万円）

5) 日本成長学会雑誌の出版費を補助（50万円）（別紙5）

6) 7th International Congress of The GRS and IGF Society における satellite symposium 開催に対する補助（50万円）（学術担当理事において選考）（別紙6）

申請者 高橋 伸一郎 東京大学大学院農学生命科学研究科

日時 平成26年10月16日（会期：10月15日～18日 参加者250人）

場所 The Suntec Exhibition & Convention Center（シンガポール）

- (3) 研究者に対する助成（主として国際研究協力の助成）
「助成事業に関する実施要領」に基づき、次のとおり実施。

1) 国外留学の補助

応募の研究者 2 名につき、学術担当理事において選考のうえ留学費を補助

- ・ 山本 雅昭（日本医科大学内分泌糖尿病代謝内科 助教）（75 万円）
留学先：Cedars-Sinai Medical Center（アメリカ合衆国）
所 属：Division of Endocrinology 2 年間
- ・ 宇都宮 朱里（広島大学大学院医歯薬保健学研究院小児科学 大学院生
兼 広島大学病院小児科・クリニカルスタッフ）（75 万円）
留学先：University of California, Los Angeles（米国）
所 属：Department of Pediatric Endocrinology 1 年間

2. 成長ホルモン剤の適正使用を推進する事業（公 2）

成長ホルモン分泌不全性低身長症など成長障害疾患患者の治療に使われる成長ホルモン剤の乱用防止、適正な使用を推進する。

(1) 治療適応判定の処理状況

全国の医師から事務局に郵送される成長ホルモン治療適応判定依頼書をコンピュータ処理により治療適応の可否を判定し、その結果を適応判定委員会に報告し、医師に適応判定書を送付。

処理件数は、平成 26 年 4 月より平成 27 年 3 月までの総件数は新規依頼 666 件、うち可は 580 件（87.1%）、継続依頼 2,279 件、うち可は 1,979 件（86.8%）である。（別紙 7-1）なお、成長ホルモン分泌不全性低身長症の依頼件数について、前年と比べると、新規は 481 件（対前年比 88.4%）、継続は 1,842 件（対前年比 88.9%）となった。（別紙 7-2）プラダー・ウィリ症候群の診断における DNA メチレーションテスト費用の助成は 2 件。骨年齢読影サービスは 401 件。

(2) 小児成長ホルモン治療の適応判定基準の改訂

- ・ Prader-Willi 症候群における成長ホルモン治療の継続時適応判定基準改訂
（平成 26 年 10 月）
- ・ 小児慢性腎不全性低身長症における成長ホルモン治療の新規適応判定基準改訂
（平成 27 年 2 月）

(3) 成人成長ホルモン分泌不全症症例登録と追跡調査

平成 26 年 4 月より平成 27 年 3 月までの新規登録は 3 件、継続は 11 件。

企業より市販後調査における提供データを登録。

(4) 間脳下垂体疾患（5 疾患）患者の調査研究

厚生労働省間脳下垂体研究班員が中心となり、先端巨大症等 5 疾患の患者の登録、長期予後、合併症等の調査をしているが、平成 22 年 5 月よりこの事務局を協会に移転。各施設より報告される症例について入力及びマンスリーレポートの発信。

(5) データベースの構築と解析

協会のデータベースに登録された総症例数は、平成 27 年 3 月現在において、新規 63,975 件、継続 179,288 件。さらに平成 23 年度より SGA 性低身長症および成人成長ホルモン分泌不全症の市販後調査におけるデータが企業から提供されており、協会のデータベースへ取り込んでいる。

3. ヨウ素関連調査研究事業（公 3）

本事業の展開につき、ヨウ素関連調査研究委員会が主体となって調査研究を行った。

(1) ヨウ素欠乏地域に対する国際協力

平成 23 年度より進めてきたヨウ素欠乏対象国に対するヨウ素酸カリウム 850 kg 無償提供について、昨年度、対象国をスリランカ民主社会主義共和国に決定。平成 27 年 1 月にスリランカ民主社会主義共和国に向け出荷の手続きを終えた。この件については、日本ヨウ素工業会、千葉県、京葉天然ガス協議会、ICCIDD (International Council for Control of Iodine Deficiency Disorders) Global Network 現在は IGN (Iodine Global Network)、外務省、UNICEF 等の協力のもと実現した。(別紙 8)

(2) 日本人のヨウ素摂取量のナショナルデータ作成および甲状腺機能、成長発達との関連に関する研究調査のため、平成 25 年より学童全国調査を開始し、26 年度は北海道中標津町、長野県松本市、長崎県長崎市、静岡県浜松市の小学校において実施した。

4. 広報活動

(1) 協会ニュース 4 回 (4 月、8 月、11 月、2 月)

(2) 協会のしおり 平成 26 年度版を 8 月に作成し、関係者に配布。

(3) ホームページの公開

(4) 医師・患者に対する啓発・支援、講演会等の後援・共催

後援 ・「第 38 回成長障害フォーラム」

主 催：成長障害フォーラム事務局

日 時：平成 26 年 6 月 15 日

場 所：仙台国際センター

講 演「低身長児の診断と治療」

(5) 「心の発達研究委員会」編集によるコミュニケーションペーパー“こころん 10” (4 月発行) の医療機関への配布。

(6) 平成 26 年度 4 月より “子どもの成長と発達—一人ひとりの子どものために成長曲線を描こう” をスローガンとする冊子を配布。(公財) 母子衛生研究会と共同事業。(別紙 9)

5. 会 議

(1) 理事会

1) 第 11 回理事会

日 時 平成 26 年 5 月 21 日 (水) 14 時～15 時

場 所 東京国際フォーラム会議室 G508

- 審議事項 平成 25 年度事業報告、決算報告
- 2) 第 12 回理事会 (書面決議)
- 日 時 平成 26 年 6 月 12 日 (木)
- 審議事項 代表理事選定、業務執行理事選定
- 3) 第 13 回理事会
- 日 時 平成 27 年 3 月 5 日 (木) 14 時～16 時
- 場 所 東京国際フォーラム会議室 G508
- 審議事項 平成 27 年度事業計画、収支予算

(2) 評議員会

- 1) 第 10 回評議員会
- 日 時 平成 26 年 6 月 12 日 (木) 14 時～15 時
- 場 所 東京国際フォーラム会議室 G508
- 審議事項 平成 25 年度事業報告、決算報告
任期満了に伴い理事・監事選任
- 2) 第 11 回評議員会
- 日 時 平成 27 年 3 月 12 日 (木) 14 時～16 時
- 場 所 東京国際フォーラム会議室 G508
- 審議事項 平成 27 年度事業計画、収支予算

(3) 学術運営委員会

- 1) 日 時 平成 26 年 7 月 19 日 (土) 16 時～17 時
- 場 所 東京国際フォーラム G610
- 2) 日 時 平成 27 年 1 月 17 日 (土) 16 時～17 時
- 場 所 東京国際フォーラム G510

No.	申請者	所属	研究課題
1	綾部 匡之 他2名	獨協医科大学越谷病院小児科	ブラダー・ウィリー症候群患者への成長ホルモン補充が身長、肥満度、糖尿病へ与える長期的効果の検討
2	荒木久美子 他4名	秋山成長クリニック	ターナー症候群の年齢や社会経験の差による空間認知機能を含む脳・認知機能の発達・成熟過程の比較検討
3	有安 大典 他1名	熊本大学生命資源研究支援センター疾患モデル分野	優性遺伝性GH1遺伝子異常症の発症機序に関するヒト化GHマウスを用いた研究
4	磯島 豪 他2名	東京大学医学部附属病院小児科	FAM111Aの生体内における機能の解明
5	板垣俊太郎 他6名	福島県立医科大学医学部神経精神医学講座	福島第一原子力発電所事故後の低線量被曝地域における子どもの心への発達の影響について－出生児のコホート研究－
6	上野 浩晶 他3名	宮崎大学医学部内科学講座神経呼吸内分泌代謝学分野	グレリン－GH軸を用いた肥満治療の可能性に関する基礎研究
7	大塚 文男 他4名	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科総合内科学	成長ホルモンによる骨芽細胞分化への影響とその機序の検討：骨老化という視点から
8	加納 聖 他1名	山口大学共同獣医学部獣医発生学分野	CRISPR/cas法を用いた矮小変異マウスpeeweeの原因遺伝子slc10a4の機能解析
9	笹岡 利安 他2名	富山大学大学院医学薬学研究部・病態制御薬理学	ドパミン神経系による情動の変化がIGF-1とインスリン作用を介した糖脂質代謝に及ぼす影響の解明
10	佐藤 直子 他1名	たなか成長クリニック	低身長思春期早期発来の原因検索と治療法の確立
11	高畑 佳史 他1名	大阪大学大学院歯学研究科生化学教室	ゲノム編集技術を基盤とした軟骨細胞分化・成長に必須の新規転写因子の探索
12	棚橋 祐典 他2名	旭川医科大学小児科	体質性低身長児におけるACAN遺伝子異常に関する研究
13	中村 明枝	国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部	原因不明のSGA性低身長症に対する包括的遺伝子解析
14	伯野 史彦 他3名	東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物科学専攻	インスリン受容体基質を介したインスリン受容体の新しい選択的スプライシング制御機構とインスリン様活性調節機構
15	長谷川高誠 他3名	岡山大学病院小児科	軟骨低形成症における遺伝的背景の解明
16	服部 高子 他4名	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科口腔生化学分野	骨伸長促進効果を有する結合組織成長因子CTGF/CCN2の低身長治療への応用のための基礎研究
17	福岡 秀規 他2名	神戸大学医学部附属病院糖尿病・内分泌内科	成長ホルモン産生下垂体腺腫の腫瘍浸潤性に関連するLong non-coding RNAの同定と作用機序の解明
18	布施 養善 他3名	国立成育医療研究センター研究所成育政策科学研究部	食物からのヨウ素摂取量を正確に評価するための研究－調理によるヨウ素含有量の変化と加工食品のヨウ素含有量
19	道上 敏美 他1名	大阪府立母子保健総合医療センター研究所環境影響部門	Natriuretic Peptide Receptor 2を介する「軟骨伸長シグナル」の細胞分子生物学的解析
20	八木 弘子 他2名	東京都立小児総合医療センター遺伝子研究科	45, Xと45, X/46, XXのTurner症候群の身長についての研究
21	吉本 勝彦 他5名	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	頭蓋咽頭腫の腫瘍化機構の解析

No.	申請者	所属	研究課題
1	石井 智弘	慶應義塾大学医学部小児科	次世代遺伝子解析装置を用いた46, XX精巣性分化疾患の責任遺伝子の同定
2	鏡 雅代 他1名	国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部	原因不明SGA性低身長症患者における包括的メチル化解析
3	高木 優樹 他1名	東京都立小児総合医療センター内分泌代謝科	Long isoform のみを障害する新規POU1F1遺伝子変異の機能分析
4	花川 純子 他5名	神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科	造血幹細胞移植後に生じる部分型萎縮症の発症頻度と危険因子の解明
5	森川 俊太郎 他2名	北海道大学大学院医学研究科小児科学分野	IGSF1異常による中枢先天性甲状腺機能低下症の日本での実態調査と変異の検討

公益財団法人成長科学協会 第27回公開シンポジウム

『子どもと母へのサプリメント ～科学の観点から～』

日 時 2014年6月14日（土）13：30～16：30

場 所 UDX Theater（秋葉原UDXビル4階）

- 演 者：児玉 浩子（帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科教授）
谷口 洋子（谷口医院副院長）
- 指定討論：宮尾 益知（どんぐり発達クリニック院長）
- 司 会：高橋 桃子（日本大学医学部附属板橋病院小児科）

PROFILE

■演 者 児玉 浩子/こだま ひろこ

1970年大阪大学医学部卒業、大阪大学小児科助手、自治医科大学小児科講師、帝京大学小児科講師・助教授・教授を経て、2011年より現職（帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科教授・学科長）、帝京大学小児科客員教授併任。日本臨床栄養学会理事、日本微量元素学会理事、日本先天代謝異常学会監事、日本学術会議連携会員、日本医師会学術企画委員、日本小児科学会栄養委員会委員、厚生労働省「日本人の食事摂取基準2015年版」策定委員。

■演 者 谷口 洋子/たにぐち ようこ

1982年神戸大学医学部卒業。東京大学小児科、自治医科大学小児科での研修を経て、1988年産婦人科医の夫の故郷である栃木県高根沢町で産婦人科小児科医院を開設。分娩を扱う産婦人科医の傍らで、新生児期から思春期までを診る小児科医として地域小児医療に従事し今に至る。

所属学会は日本小児科学会、日本外来小児科学会、日本小児アレルギー学会、日本ビタミン学会、日本坑加齢医学会、国際オーソモレキュラー学会。

■指定討論 宮尾 益知/みやお ますとも

どんぐり発達クリニック院長。徳島大学医学部卒業、自治医科大学小児科学教室助教授、国立成育医療研究センターこころの診療部発達心理科医長を経て、2014年4月より現職。専門は小児精神神経疾患、発達障害、高次認知機能障害、てんかんなど。

■司 会 高橋 桃子/たかはし ももこ

臨床心理士。東京女子大学文理学部心理学科卒業、白百合女子大学大学院発達心理学専攻修士課程修了。日本大学医学部附属板橋病院小児科に勤務。

■提 言

子どもと母へのサプリメント使用の現状と課題

/児玉浩子

サプリメントが急速に普及しているのは世界的な傾向で、米国等では、妊婦・授乳婦および乳児・小児が対象のサプリメントも多種多様のものが安価で市販されている。また、米國小児科学会は母乳栄養児にビタミンDのサプリメント使用を推奨している。このような状況下で、米国、中国、韓国などでは小児のサプリメント使用は30%以上であり、タイでは生後6か月までの乳児の約35%がサプリメントを使用していると報告されている。一方、サプリメント使用による健康被害も報告されている。

我が国でも近年15～20%の小児がサプリメントを使用していると報告されている。マスコミやインターネットでの販売業者の宣伝等の影響も大きい。現在、消費者庁は米国のダイエタリーサプリメントの表示制度を参考に“食品の新たな機能性表示制度”を検討しており、今後この制度が小児や母親のサプリメント使用に与える影響も大きいと思われる。「日本人の食事摂取基準」の各栄養素の推奨量は、バランスの良い食事での摂取可能である。しかし一方的にサプリメントを“必要ない”と言うのではなく、信頼できる情報や栄養・食に関する知識を保護者に提供し、食育を推進することが極めて大切である。

■提 言

オーソモレキュラー療法（分子栄養学に基づく栄養療法）

～胎児期 乳幼児期の食育が人生に影響する！～ /谷口洋子

ヒトの体は60兆個の細胞できている。個々の細胞の機能は、細胞を構成している物質（分子）と、細胞を働かせる酵素やホルモンなどの物質の濃度によって決まる。

オーソモレキュラー療法は、不足している物質、つまり栄養素を補うことで不定愁訴や疾病を改善していこうとする栄養療法である。アトピー性皮膚炎の子ども達を、ステロイド軟膏に依存せずに改善させることを17年前から継続しているが、7年前に栄養療法の考え方を取り入れてから改善が速くなった。また、栄養療法により、チックや朝起き不良、登校前の腹痛や頭痛など、不登校につながりがちな不定愁訴においても良い効果を経験している。アトピー性皮膚炎の乳児の母親に、妊娠中の体調を聴取すると様々な栄養障害を持っていたと推測できるケースが多い。胎児期に胎盤を通じて受け取るべき栄養素の不足によって、生後、粘膜や皮膚や精神神経系など様々な問題に影響していることをお伝えしたい。妊娠中に、蛋白質、鉄、亜鉛、ビタミンB群などを中心とした栄養療法を試みた母子の状態の調査により、アレルギー疾患になりにくい、感染症にかかりにくい、情緒が安定している、睡眠の質が良い、溢乳や下痢などが少なく母乳哺育が継続できるなど、同じ母親から先に生まれた子と比較すると、とても良いことを実感している。

また、最近注目されているビタミンDは、カルシウム吸収の他にも免疫調節や細胞の分化にかかわるなど、様々な働きがあることが明らかになっている。ビタミンD濃度が、一般的に使われている基準値内にあれば十分な量というわけではなく、乳児から成人までビタミンD不足が多いにもかかわらず、日本では認識が低いという問題にも言及したい。

プログラム

著者は筆頭著者（演者）のみ記載しています。

7月10日（木）（1日目）

- 13:00~13:10 開会の辞
有田 順（山梨大学大学院医学工学総合研究部）
- 13:10~14:50 第10回内分泌学若手研究者発表（1）
座長：岡村 将史（東北大学病院）
田中 知明（千葉大学大学院医学研究院）
- YEC1-1 「脂肪酸伸長酵素Elovl6による脂肪酸組成制御と生活習慣病」
松坂 賢（筑波大学医学医療系）
- YEC1-2 「多発性内分泌腫瘍症1型並びに類縁疾患の新たな知見」
堀口 和彦（群馬大学大学院医学系研究科）
- YEC1-3 「脂肪組織線維化の分子機構と異所性脂肪蓄積」
田中 都（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科）
- YEC1-4 「脂肪細胞由来ホルモン、レプチンのトランスレーショナルリサーチ」
海老原 健（京都大学医学部附属病院）
- 14:50~15:10 休憩
- 15:10~16:30 シンポジウム（1）：内分泌・代謝の中樞性調節
S1-1 座長：西原 真杉（東京大学大学院農学生命科学研究科）
「ほ乳類の生殖を制御するキスペプチンニューロン」
東村 博子（名古屋大学大学院生命農学研究科）
- S1-2 座長：児島 将康（久留米大学分子生命科学研究所）
「臓器連関による新たな骨代謝調節機構」
竹田 秀（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科）
- 18:30~21:00 夕食

7月11日（金）（2日目）

- 8:50~10:50 シンポジウム（2）：生活習慣病を解く
S2-1 座長：河田 照雄（京都大学大学院農学研究科）
「低タンパク食地域における腸内細菌の栄養機能の解明」
梅崎 昌裕（東京大学大学院医学系研究科）
- S2-2 座長：小島 至（群馬大学生体調節研究所）
「視床下部室傍核AMPKによる摂食調節機構」
箕越 靖彦（生理学研究所）
- S2-3 座長：松本 俊夫（徳島大学藤井節郎記念医学科学センター）
「肥満と老化に抗して生活習慣病に克つ」
植木 浩二郎（東京大学大学院医学系研究科）
- 10:50~11:10 休憩
- 11:10~12:00 第10回内分泌学若手研究者発表（2）
座長：栗原 勲（慶應義塾大学医学部）
山内 敏正（東京大学大学院医学系研究科）
- YEC2-1 「糖尿病と骨代謝異常：臨床的アプローチによる病態解明」
山本 昌弘（島根大学医学部）
- YEC2-2 「尿細管-糸球体連関：近位尿細管特異的Sirt1遺伝子改変マウス・ヒト腎生検による糖尿病性腎症の発症メカニズムの解析」
長谷川 一宏（慶應義塾大学医学部）
- 12:00~12:15 休憩
- 12:15~13:05 ランチョンセミナー（1） 共催：帝人ファーマ株式会社
座長：高橋 裕（神戸大学大学院医学研究科）
「電気生理学と可視化解析による神経内分泌細胞の分泌現象の解明」
高野 幸路（北里大学医学部）
- 13:05~13:45 休憩
(13:10~13:40: Young Endocrinologist Conference、会場「明星」)

13:45~14:35 第10回内分泌学若手研究者発表(3)

座長: 田中 智洋 (京都大学大学院医学研究科)
土居 雅夫 (京都大学大学院薬学研究科)

YEC3-1 「高脂肪食負荷による食欲制御機構破綻のメカニズム解明の試み
～トランスクリプトーム解析を中心として～」
園山 拓洋 (京都大学大学院医学研究科)

YEC3-2 「白色・褐色脂肪細胞におけるクロマチン構造変化とエピゲノム制御の役割」
脇 裕典 (東京大学大学院医学系研究科)

14:35~14:50 休憩

14:50~15:30 バイオテクノロジーアップデート(1)

座長: 若山 照彦 (山梨大学生命環境学部)

「iPS細胞研究の今」
中川 誠人 (京都大学iPS細胞研究所)

15:30~16:10 キャリアアップ授業(英語プレゼン対策術)

座長: 東村 博子 (名古屋大学大学院生命農学研究科)

「Japanese Doctors and English Presentations: A Pathology, Diagnosis,
and Suggested Treatments」
Michael Guest (宮崎大学医学部)

16:10~16:30 休憩

16:30~17:30 センチュリーレクチャー

座長: 寒川 寛治 (国立循環器病研究センター)

「睡眠・覚醒の謎に挑む」
柳沢 正史 (筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構)

17:30~17:45 休憩

17:45~18:45 ポスター発表

奇数番号: 17:45 ~ 18:15
偶数番号: 18:15 ~ 18:45

19:00~21:00 夕食(懇親会)

7月12日(土) (3日目)

8:30~ 9:20 第10回内分泌学若手研究者発表(4)

座長: 橋本 貢士 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)

YEC4-1 「生殖内分泌H-P-O系の調節メカニズムの検討
— BMPとリズム因子に着目して —」
大塚 文男 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科)

YEC4-2 「中枢神経を介した肝糖産生制御」
井上 啓 (金沢大学医薬保健研究域)

9:20~ 9:35 休憩

9:35~10:15 バイオテクノロジーアップデート(2)

座長: 宮澤 恵二 (山梨大学大学院医学工学総合研究部)

「ゲノム編集技術を活用した生命科学研究」
川原 敦雄 (山梨大学大学院医学工学総合研究部)

10:15~10:25 休憩

10:25~11:45 シンポジウム(3):ステロイド研究のフロントランナー

S3-1 座長: 宮本 薫 (福井大学医学部)

「核内受容体レギュロンによるエネルギー代謝調節」
諸橋 憲一郎 (九州大学大学院医学研究院)

S3-2 座長: 岩崎 泰正 (高知大学臨床医学部門)

「グルココルチコイド受容体転写活性に対するマルチレベル調節ネットワーク:
三次元分子構造からnon-coding RNA、そしてenhancerなどintergenic area
からの調節についての研究の現況と将来の展望」
木野 智重 (Program in Reproductive and Adult Endocrinology,
NICHD, NIH)

11:45~12:00 休憩

12:00~12:50 ランチョンセミナー(2) 共催: あすか製薬株式会社

座長: 森 昌朋 (北関東肥満代謝研究所)

「妊娠と甲状腺」
吉村 弘 (伊藤病院)

12:50~13:00 「第33回内分泌代謝学サマーセミナー」のご案内

諸橋 憲一郎 (九州大学大学院医学研究院)

13:00~13:10 閉会の辞

有田 順 (山梨大学大学院医学工学総合研究部)

2014年度YIA最終合格者 10名

第87回学術総会高柳会長(福岡)

	氏名	フリガナ		所属
1	青山 倫久	アヤマ	トモヒサ	東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科
2	伊藤 綾香	イトウ	アヤカ	HHMI at University of California, Los Angeles
3	神野 歩	カノ	アユミ	神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学
4	木村 郁夫	キムラ	イコ	京都大学大学院 薬学研究科 薬理ゲノミクス分野
5	嶋 雄一	シマ	ユウイチ	九州大学大学院医学研究院 分子生命科学系部門 性差生物学講座
6	田中 都	タナカ	ミヤコ	東京医科歯科大学 糖尿病・内分泌・代謝内科
7	田中 愛	タナカ	アユム	信州大学大学院医学研究科 循環病態学講座
8	永野 秀和	ナガノ	ヒデカズ	千葉大学大学院医学研究院 細胞治療内科学
9	萩原 大輔	ハギワラ	ダイスケ	名古屋大学大学院 医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学
10	松木 核	マツキ	カク	神戸大学大学院医学研究科 内科学講座 糖尿病・内分泌内科学部門

計10名

第87回日本内分泌学会学術総会

会期：2014年4月24日(木)～26日(土)

学会参加者数報告書

			事前登録 計	当日日ごと 計				当日登録 計	事前& 当日総計
				4/23	4/24	4/25	4/26		
カテゴリー	事前	当日	人数	人数				人数	人数
会員	13,000	15,000	567	86	754	463	227	1,530	2,097
非会員	14,000	16,000	45	0	237	88	21	346	391
院生	4,000	5,000	60	0	94	55	18	167	227
有料参加者 合計			672	86	1,085	606	266	2,043	2,715
学生				1	20	5	4	30	30
国内海外招待・非会員									80
理事・歴代・名誉									35
無料参加者 合計			0	1	20	5	4	30	145
参加人数 合計			672	87	1,105	611	270	2,073	2,860
学会懇親会	3,000	3,000	84	86	—	—	—	86	170

日本成長学会雑誌

Journal of Japanese Association for Human Auxology

総説

成長会誌◆ J. Jpn. Ass. Hum. Auxo

- 新生児医療から見た子どもの成長
多田 裕

原著

- 中学生男子サッカー選手における膝アライメントの縦断的研究
岡本海斗・他
- Real-time Tissue Elastography によって評価した
膝蓋腱弾性の発育変化
—小中学生男子サッカー選手を対象にした横断的検討—
木谷健太郎・他
- 思春期低身長小児における Growth Potential II 法を用いた
予測成人身長の見直し
田中敏章・他

第25回日本成長学会学術集会
開催・演題募集案内

入会案内／投稿規程／査読者／会則／
理事会議事録／役員／賛助会員／編集後記

Vol.20 No.1
Apr. 2014



日本成長学会雑誌

Journal of Japanese Association for Human Auxology

総説

成長会誌◆ J. Jpn. Ass. Hum. Auxo

- 肥満度, BMI, 身長・体重成長曲線,
そして子どもの肥満
—思春期の子どもの体格評価指数としての
BMIの問題点—
村田光範

原著

- 成長ホルモン治療中のSGA性低身長24名の
思春期開始について
望月貴博・他

第25回日本成長学会学術集会
プログラム・抄録

入会案内／投稿規程／査読者／会則／
理事会議事録／賛助会員／編集後記

Vol.20 No.2
Aug. 2014



Supporting Members of the IGF Society and the Symposium on IGFs, Insulin and IGFBPs in Cancer



TISSUE THERAPIES

16 October 2014, Thursday

Venue

02:00 - 05:15 pm	SY2	IGFs, Insulin and IGFBPs in Cancer <i>Chair: Rob Baxter</i> <i>Sydney, Australia</i>	Room 331
02:00 pm	SY2-1	Insulin-like Growth Factor 2 mRNA Binding Proteins (IMP/IGF2BP) as mRNA Safe Houses in Cancer and Development <i>Lars Joenson</i> <i>Copenhagen, Denmark</i>	
02:30 pm	SY2-2	The IRS proteins: Determinants of IGF-1R Signaling and Tumor Metabolism <i>Leslie Shaw</i> <i>Massachusetts, United States</i>	
03:00 pm	SY2-3	Obesity, Diabetes and Cancer Risk: Identifying Causal Factors <i>Emily Gallagher</i> <i>Newark, United States</i>	
03:30 pm		Break	Room 334
04:00 pm	SY2-4	IGFBP-2 In Cancer: From The Matrix to The Inside Job <i>Vince Russo</i> <i>Melbourne, Australia</i>	Room 331
04:30 pm	SY2-5	The G protein Estrogen Receptor (GPER) is involved in IGF-1/Insulin Signaling in Cancer Cells <i>Marcello Maggiolini</i> <i>Cosenza, Italy</i>	
05:00 pm		Question & Answer	
05:15 - 06:15 pm		IGF General Meeting	Room 331

成長ホルモン適応判定委員会の活動状況
受付数及びその可否一覧表（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月末迄）

成長ホルモン分泌不全性低身長症

新規	受付総数	可	否	継続	受付総数	可	否	希望なし及び中止
	481	431	50		1,842	1,580	17	245

ターナー症候群

新規	受付総数	可	否	継続	受付総数	可	否	希望なし及び中止
	23	23	0		102	91	1	10

軟骨異栄養症

新規	受付総数	可	否	保留	継続	受付総数	可	否	希望なし及び中止
	43	22	19	2		71	65	0	5

慢性腎不全性低身長症

新規	受付総数	可	否	継続	受付総数	可	否	希望なし及び中止
	3	3	0		14	13	0	1

プラダー・ウィリ症候群

新規	受付総数	可	否	継続	受付総数	可	否	希望なし及び中止
	9	9	0		42	39	0	3

SGA 性低身長症

新規	受付総数	可	否	継続	受付総数	可	否	希望なし及び中止
	107	92	15		208	191	0	17

新規依頼総数 666 件

継続依頼総数 2,279 件

可総数 580 件

可総数 1,979 件

成人成長ホルモン分泌不全症登録数

(平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月末)

新規登録 3 件

継続登録 11 件

成長ホルモン分泌不全性低身長症依頼数比較

新規	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年度依頼数	69	29	31	44	80	85	42	33	39	35	26	31	544
26年度依頼数	56	31	23	27	75	74	48	35	21	39	20	32	481
前年度との比較	81.2%	106.9%	74.2%	61.4%	93.8%	87.1%	114.3%	106.1%	53.8%	111.4%	76.9%	103.2%	88.4%

継続	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年度依頼数	151	165	196	175	266	235	226	176	125	156	102	98	2,071
26年度依頼数	131	145	179	128	187	237	219	172	123	133	101	87	1,842
前年度との比較	86.8%	87.9%	91.3%	73.1%	70.3%	100.9%	96.9%	97.7%	98.4%	85.3%	99.0%	88.8%	88.9%

スリランカ民主社会主義共和国へのヨウ素酸カリウム無償提供

3月17日、千葉県庁において、スリランカ民主社会主義共和国（以下、スリランカ）に対するヨウ素酸カリウム 850 kgの贈呈式が行われました。

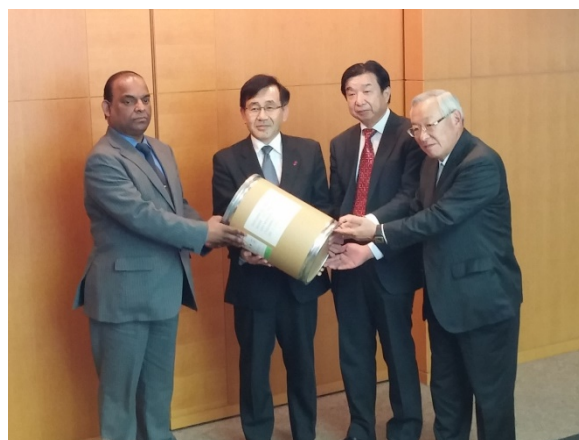
これは、当協会のヨウ素関連調査研究委員会が、日本ヨウ素工業会よりヨウ素酸カリウム 850 kg無償支援の申し出をいただいたのを受け、ヨウ素欠乏地域への国際協力として、支援先（国）をスリランカと決定し以前より同国と交渉してきましたが、今年1月、各方面への調整が整い、ヨウ素酸カリウムがスリランカに向け出荷されたことを受け、贈呈式を行ったものです。（既に、スリランカ政府保健省に提供済み）

ここに至るまでに、支援先の調整については、ユニセフ、外務省、Iodine Global Network、また物資の提供・輸送費用の支援などで、日本ヨウ素工業会（加盟企業全8社のうち、千葉県内に拠点を置く6社）、京葉天然ガス協議会に多大なるご協力を賜わり、また最終的な調整をいただいた千葉県に深く感謝申し上げます。

ヨウ素は人間の成長に欠かせない栄養素の一つで、ヨウ素欠乏症は、発育不全、知能障害、その他種々の機能障害や甲状腺腫などを引き起こします。今回贈られた 850 kgのヨウ素は、スリランカでヨウ素入りの食塩として加工され、スリランカの人々の健康維持に役立てられるということです。

【出席者】（敬称略、肩書は3/17現在）

- ・在日スリランカ大使館商務参事官 D.D.Premaratne (D.D.プレマラトナ)
- ・日本ヨウ素工業会会長 京葉天然ガス協議会会長 吉井 正徳
- ・千葉県副知事 諸橋 省明
- ・千葉県総合企画部長 鶴巻 郁夫
- ・ユニセフ東京事務所パートナーシップ調査官 大須賀 智子
- ・Iodine Global Network*日本代表 (公財) 成長科学協会名誉顧問 入江 實
- ・(公財) 成長科学協会理事長 田中 敏章



* Iodine Global Network (アイオダイン・グローバル・ネットワーク) ヨウ素欠乏症に対する活動を進める NGO。平成 25 年に ICCIDD (ヨウ素欠乏症国際対策機構) より名称変更。

平成 26 年度 「子どもの成長・発達普及啓発事業」 概要

“子どもの成長と発達—一人ひとりの子どものために成長曲線を描こう”

冊子無償配布

- 小冊子『子どもの成長と発達—ひとりひとりに成長曲線を描こう』を作成
保護者が子どもの身長・体重を標準成長曲線に描くことにより、子どもの健全な成長を見守り、また低身長や思春期早発、肥満・やせなどの早期発見・早期治療の重要性について理解を深められるよう分かりやすくまとめた小冊子を、市町村の妊娠届け出時に無償配布。
- 体 裁：B6 判 16～24 ページ カラー 中綴じ 成長曲線収録
- 指 導：田中敏章（成長科学協会理事長、たなか成長クリニック院長）
- 対 象：乳幼児を持つ保護者、妊婦
- 配布先：都道府県・政令指定都市・中核市等
- 部 数：80 万部
- 配布期間：平成 26 年 4 月より平成 27 年 3 月まで
- 公益財団法人母子衛生研究会との共同事業（発行）
附：【公益財団法人 母子衛生研究会】
「心豊かな親づくりとすべての子どもの幸せを」を願って、昭和 35 年 3 月設立。
全国の市区町村から妊婦や子育て中の保護者に、妊娠・出産・育児の確かな情報提供を行うとともに、母子保健の専門家・関係機関との連携のもと母子保健向上に取り組む。母子健康手帳や副読本の作製、配布。母子健康関係者向けセミナー等開催。

平成26年度「子どもの成長・発達」都道府県別配布一覧表

都道府県	部数	都道府県	部数	都道府県	部数
北海道	21,500	岐阜	13,720	佐賀	8,840
青森	10,890	静岡	22,148	長崎	10,130
岩手	9,510	愛知	31,235	熊本	19,730
宮城	15,110	三重	12,310	大分	6,040
秋田	7,570	滋賀	10,610	宮崎	7,170
山形	10,100	京都	24,540	鹿児島	16,230
福島	16,973	大阪	31,830	沖縄	19,710
茨城	20,250	兵庫	47,570		
栃木	15,830	奈良	10,100	予備	3,000
群馬	13,524	和歌山	9,300		
埼玉	47,595	鳥取	5,600		
千葉	54,650	島根	4,530	(合計)	800,000
東京	42,600	岡山	6,320		
神奈川	28,355	広島	23,235		
新潟	20,530	山口	6,875		
富山	5,250	徳島	5,045		
石川	10,785	香川	5,250		
福井	2,945	愛媛	7,865		
山梨	6,280	高知	5,810		
長野	16,070	福岡	48,940		